

尾瀬の保護と適正利用のための指導と案内

尾瀬ガイドグループ

児玉芳郎*

Suggestions and Guidance for the Better Use of "OZE".

Oze Guide Group

Yoshiro KODAMA*

貴重な「尾瀬」の自然が、今、オーバーユースの前に破壊されようとしている。私達は、この原因が日本の国立公園の利用法や日本人の自然に対する意識構造そのものにあると捉え、以下のような提案を行った。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 特別保護地区の拡大 | 5 専用電気バスの運行 |
| 2 高層湿原上の木道ルートの全廃 | 6 関連法の整備 |
| 3 稜線内施設の適性配置 | 7 保護・環境教育センターの設置 |
| 4 一般車両の乗り入れ禁止 | 8 入山者への指導・教育の徹底 他 |

この提案に基づいて、これまでさまざまな普及・教育活動をおこなってきたが、いまだ充分な成果をあげるには至っていない。

しかし、私達の力量の中でも、自然保護指導員を育成し入山者への指導にあたることは可能である。

当面は、この活動を中心とした運動の展開を第一に考えて提案の実現を計りたい。

日本が誇る日光国立公園の特別保護地区・特別天然記念物。本州で最大規模の高層湿原と幾多の貴重な動植物を育み、たぐい稀な自然景観を有する「尾瀬」には年間50万人とも 100万人ともいわれる数の人々が訪れる。

尾瀬は四方を高い山に囲まれた窪地である。そのために降水が溜り、湖や湿原が発達した水盆である。そこに多くの入山者による生活雑排水を流し込めば、出口の少ない水盆の水は富栄養化してしまい、貧栄養の水に依存して生活してきた周辺の植生に重大な影響がおよぼ及ぶことは目に見えている。

もともと一年の大半は雪に閉ざされる冷涼な気候は、それでなくとも有機物の分解を困難にしているわけで、だからこそ分解されない植物の遺骸が盛り上がって高層湿原を形成してきた歴史を持

つのである。

加えて、登山者の踏みつけによる乾燥化・裸地化（湿原を踏みつけるということは水を吸ったスポンジを踏みつけることと同じである）や本人が気付かないうちに靴などに付いて運ばれてくる下界の植物や小動物の定着もみられる。クロスカントリースキーの流行による冬期の利用（立入禁止区域の標識も雪の下）、新幹線や関越自動車道を中心とする交通網の整備等々、尾瀬を取り巻く環境は入山者に悪意はなくとも最悪の状態となっている。このような状況を改善するため、私たちは昨年次のような提案をおこなった。

1. 現行の特別保護地区を約 2 倍規模に拡大する。
2. 高層湿原上の木道ルートを廃止し、山ぎわや拠水林ぞの影響の少ないルートに変更する。

*香蘭女学校中学高等学校生物教室
Junior and Senior High School, St. Hilda's School.

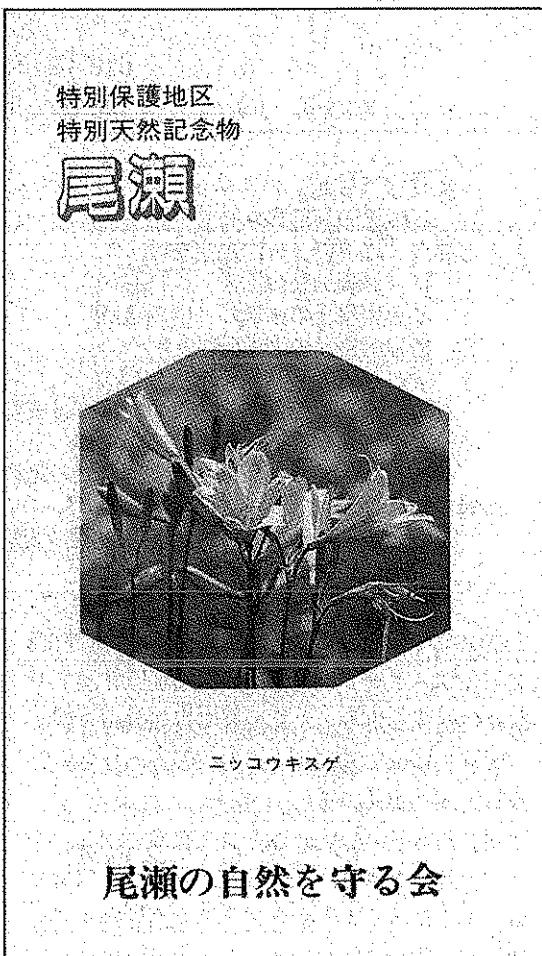
3. 尾瀬の稜線内にある宿泊等の施設を稜線外に移転し、稜線内には最低限必要な避難・休憩施設のみとする。
 4. 一般車両の稜線までの乗り入れを禁止し、入山専用の電気バスを運行する。
 5. 関連する法律の整備をおこない、保護センターや環境教育センターを要所に配置して、入山者への指導・教育の徹底を計る。 等々
まだ課題も多々あるが、結論は自然そのものの持つ生産・再生能力までをも食い潰してしまうようなオーバーユース・過剰利用を避け、大切に保全していくことである。
- * * * * *

今年度は「尾瀬の自然を守る会」が10年以上にわたって育成を続けてきた自然保護指導員(130名登録)による入山者への指導を、より発展的に実施することを目的としてミズバショウシーズン開始の5月中旬より、紅葉の10月中旬まで毎週末を中心に戸倉(群馬県)・檜枝岐(福島県)の2カ所をベースに集中指導・教育活動をおこなった。

まだまだ入山者のすべてに接することは困難ではあるが、いずれはゴミの持ちかえり運動と同様、一定の成果を上げ得るものと確信している。

これからは尾瀬を単なるレジャーランドとして利用するのではなく、日本の国立公園の手本となつた欧米の例のように、また、歴史的遺産である多くの国宝や文化財の利用形態のように、訪れる人々が尾瀬で何を感じ、何を得てくるかといった目的意識を持って大切に利用するようにしなければ、私たちは未来の人々から永久にその責任を問われ続けることになるだろう。私達は、今、日本の国立公園の利用形態を根底から直さなければならぬと考えている。

私達は今後とも提案の実現に向け努力を続けていく所存である。また今回、この私達の活動にご理解を示してくださった(株)日本自然保護協会の各位には心より深く感謝申しあげる次第である。



P.N. ファンド助成によって作成されたパンフレット

Summary

The precious nature of Oze will be destroyed by overuse. We have considered how to use a national park and how to conserve the nature. We would like to suggest the following plans.

1. The spread of the special reserve.
2. Taking the wood trails away ; We should take the wood trails on the marshland away.
3. Establishment of shelters and resting places ; In the ridgeline, it is necessary to have some shelters and resting places. But, so many lodges should be moved out of the ridgeline.
4. We should not go by car to the ridgeline.
5. We should use the special electric bus.
6. The arrangement of the related laws and regulations.
7. Establishment of centers for nature conservation and environmental guidance.
8. Bringing out the guide for nature conservation.

We have tried carrying out these plans for a long time. But, it isn't easy to get excellent results.

For the moment, we would like to bring up the guide for nature conservation.